令和５年度　第１回　鶴岡市地域ケア推進会議　（会議概要）

○日　　時　　令和５年７月１９日（水）　午前１０時００分から１１時５５分まで

○会　　場　　鶴岡市役所　別棟２号館　会議室

○グループワークの概要
今年度のテーマ「いつまでも住み慣れた鶴岡で暮らし続けるために」について、各グループにサブテーマを設定し、サブテーマについて３つの内容（①いつまでも安心して暮らし続けるためにこうだったらいいなとイメージすること、②そのために地域に必要なこと、③そのために自分たちができること）について話し合いを実施。

【地域のつながりと地域づくり】
１グループ
①　・役員でないと事業に無関心。近所の情報が入りにくい、住民の人が自分のこととして関わっていない現状にあるのではないか。あいさつを心がけることや普段のコミュニケーションをとることが、助け合いにつながる。元気に働くこと、生きがいがこれから必要ではないか。
②　・活動の場となる施設がないところも多い。今行っている通いの場でも会場が２階であるため階段を上らなければいけない、鍵を開けないと使えないなどの課題あり。公民館を常に鍵を開けておくことはできないのか。
・コロナ禍前は、飲み会がコミュニケーションの場になっていた。飲み会の開催をしたい。
・免許の返納の問題については、免許を返納したことで「足をもがれたようだ」と言っている高齢者もいた。外出をサポートできるものが必要である。
・ドローンの活用はどうか。薬や物を運んではどうか。
・就労システムについて。シルバー人材センターはあるが、まだまだ元気な高齢者もいるため就労につながるような形や仕組みはできないか。以前は、ボランティアや就労は生きがいや社会貢献と言われていたが、今は経済的なところで少しでも働かなければとなってきているのではないか。必要なところに力のある方が行けるようになるといい。
③　・空き家の利活用。空いている所がたくさんある。集まる場にできないか。
・集まれる仕組みづくりが必要。
・開かれた事業所になる。
・日常の関わりからスタートする。何かあった場合もすぐ対応できるのではないか。普段の見守りにもなる。
・ひきこもらせないアプローチが必要。
・町内で色々な企画やイベントをしているが、参加する人は同じ。もっと若い人や色々な人に参加してもらうためにはどうしたらいいか。

４グループ
①　・交通機関の活用。免許返納後も行きたいところに行けるような交通機関がたくさんあるといい。
・災害時、避難場所へ歩いて行けるように介護予防に取り組んでいきたい。
・地域ぐるみで助け合いがある地域でいたい。若い人たちの教育や人材育成ができていれ

ば、安心して暮らしていけるのではないか。
・何かあれば相談できるところに住みたい。地域との関係性がしっかりしていれば、何かあった時も安心。そういった人間関係のできたところに住みたい。
・お互いに気にかけあえるところに住んでいれば安心して暮らせるのではないか。

② ・集まる場については、コロナで中止していた町内会行事やイベントの再開が必要。
・関係の希薄化については、昔のように助け合える雰囲気づくりや若い人が参加するような声かけ、全員で集まるという目標をもつことも必要ではないか。
・退職してからでは地域の取り組みがわからないため、地域の活動をアピールできる方法があればいいのではないか。
・参加意欲が出るような景品を出すと参加率がよくなるため、そういった仕掛けづくりも必要ではないか。財源問題もあるが、地域役員と話し合っていきたい。

③ ・今住んでいる所が魅力的であると感じてもらうことが必要ではないか。若い人が定着できるように取り組んでいくことが必要になる。県外に行っても戻ってこれる地域にしていく。そのために子どもの頃から楽しい体験づくりが必要ではないか。地域でのイベントを開催した際に声かけをしていきたい。近所の子どもへの挨拶から声かけできるような顔の見える関係づくりが必要。また、他地域から転入してきてもイベントに参加できるように声をかけていきたい。
・役員が回ってきたら引き受けるようにしたい。
・隣近所の人を理解するために、回覧板を回す時にポストに入れるのではなく直接渡し、関係づくりをしていきたい。

【安心して暮らし続けるためのしくみ・支え合い】

２グループ

① ・安心って何だろう。みんなが同じ方向を向いていない。安心という考え方、解決方法が違う現状がある。
・環境の問題。田舎には田舎の暮らし方、都会には都会の暮らし方がある。
・家庭環境も変化しており、家庭の中にも色々な問題がある。家庭の中で問題を解決できなくなっている家が増えている。

② ・５年後の地域での理想とする暮らし方のイメージは、郊外地と市街地で違いはあるが、集まれる場所があることが重要である。気軽にすぐ行ける場の創出が大事である。
・コロナもありエゴイズムということが蔓延している中、地域の中では重要なキーワードになるのではないか。そのために、通いの場に行くための手段づくりが大切ではないか。

③ ・老人クラブが衰退しており、老人クラブと同様の機能を持つ活動の存続が最重要である。時代にあったものがよいのではないか。大枠は、地域組織でつくり。その中で趣味の会や心豊かになれる芸術の場、体力をつける通いの場などがあると良い。キーワードは「楽しい」が大事ではないか。
・世代間交流も大事である。若いうちから、子育て世代から、スポ少や交流など色々な集まりを続けて、若い人たちも地域貢献できるような場を作ることができればいいのではないか。

５グループ

① ・人づきあいが苦手でも、一人暮らしでも、認知症になっても、安心して暮らし続けられるように見守りができる地域だったらいいな。
・歩いて買い物に行けるところがあったらいいな。

・往診があったらいいな。
・地域の中で地域を支えられる雰囲気を取り戻せたらいいな。
・家族もあてにならなくなってきている中で、安心して一人暮らしができるようになればいいな。
・除雪はボランティアだけではできないため、色々なところと協力し合って除雪の支援体制ができたらいいな。
・情報のアクセスが可能な状況であれば、買い物や医師の診察などもできるのではないか。
・介護保険のサービスも安心して受けられるように相談機能もこのままあったらいいな。

② ・お店と医療にはアクセスできるように、情報公開や情報がつながったらいいな。一家に一台タブレットがあったらいいな。公民館に公衆電話はあるが Wi-Fi もあったらいいな。
・通いの場があり、それをきっかけに仲良くなることもある。通いの場は必要。
・移動については、乗り合いタクシーやデマンドタクシーなど予約して乗れるものがあるといいな。
・屋根の雪下ろしの助成がもっとあるといい。歩くところや屋根など雪がとける仕組みがあるといいな。

③ ・地域の行事にはなるべく参加するようにしていきたい。
・コロナで３年間活動が止まり、地域によっては何もしたくないとなっている所もあるが、避難訓練などの集まる機会とし、弁当を配るなど楽しさもプラスして集まる機会をつくってはどうか。
・若い人が地域のトップに立ち、若い人がやる気を出して高齢者と一緒に地域づくりをしていけたらどうか。

【医療・介護・福祉の充実】
３グループ

① ・安心して医療サービス・介護サービスが受けられるようになればいい。
・閉院等で地域の医療機関が少なくなっており、地域の人が困っているという現状がある。若い人も高齢者も、歩いて医療機関を受診できるようになれば安心できるのではないか。
・介護保険申請してもサービス利用につながらない。利用者が求めているサービスをスムーズに提供できるようにするためにはどうしたらいいか考えていかなければいけない。
・医療については、オンライン診療ができるようにしてはどうか。通院が大変な地域も助かるのではないか。
・利用者が求めているサービスの提供について、デイサービスが利用したいのに実際につながらなかったケースあり。本人のイメージとのギャップについても考えていかなければいけない。

② ・安心して暮らし続けるために、人と人とのつながりや互助が必要。
・地域でできる・できないの役割分担をして、できるところに協力していくというつながり方がよいのではないか。
・医療、介護の専門職へのバックアップが必要ではないか。医療、介護の人材が不足している。少ない人材の中で自分は何ができるかを地域で話し合うことも必要ではないか。
・昔はボランティアで医療や介護を支えているということも多かったが、今はボランティアが少なくなりボランティアといっても人が集まらないため、有償ボランティアを地域で増やせるように声かけしてはどうか。
・デイサービスに行ったから、繋げたからといいつつ隣近所の関係性を続けていくことも大切ではないか。

③ ・地域に向けていろいろなことを発信していく。現在の取り組みを継続することが大切ではないか。繰り返し発信していくことが必要。
・「医療・介護・福祉の充実」というサブテーマだが、５年後・１０年後に「充実」しているというイメージが難しい。現状維持も大変な状況である。それを克服するためには、少しでも人を増やすことや医療機関を増やすことが必要。
・各地域の法人間で連携して、今あることを生かし続けていくこともできるのではないか。
・若い人に向けて、デジタルを活用した若い世代への発信もできるのではないか。
・鶴岡市と民間医療機関との連携の提案もできるのではないか。